

令和3年2月28日（日）
重文千葉家の活用を考える会

遠野地域の山の利用の歴史など



林野庁東北森林管理局
岩手南部森林管理署遠野支署
支署長 野木宏祐

ざっくりとした遠野の山の利用概念図

近代化以前

奥山
(薬師岳、一本柵山など)
山岳信仰・狩猟・峠越え
～南部家の直轄林として保護～

遠野の山の怪異現象は、奥山でも里山・庭先でも起きている。



山には1人で行くのは危険
(国有林では1人作業は原則禁止)

牧野・草地・カヤ場
(山谷川牧野、西内山など)
放牧、カヤの採取、ハギの採取、草原性の山菜の採取

里山(ムラに面した山々)
薪の採取、製炭、山菜、キノコ、樹皮、木の実、つる、生活用材、建築材

山の神

山の神

ムラ
生活・農耕

出づくり・
焼き畑

山の神はムラとヤマの境界や怪異現象や事故があった場所、大木の下などに祀られることが多い。

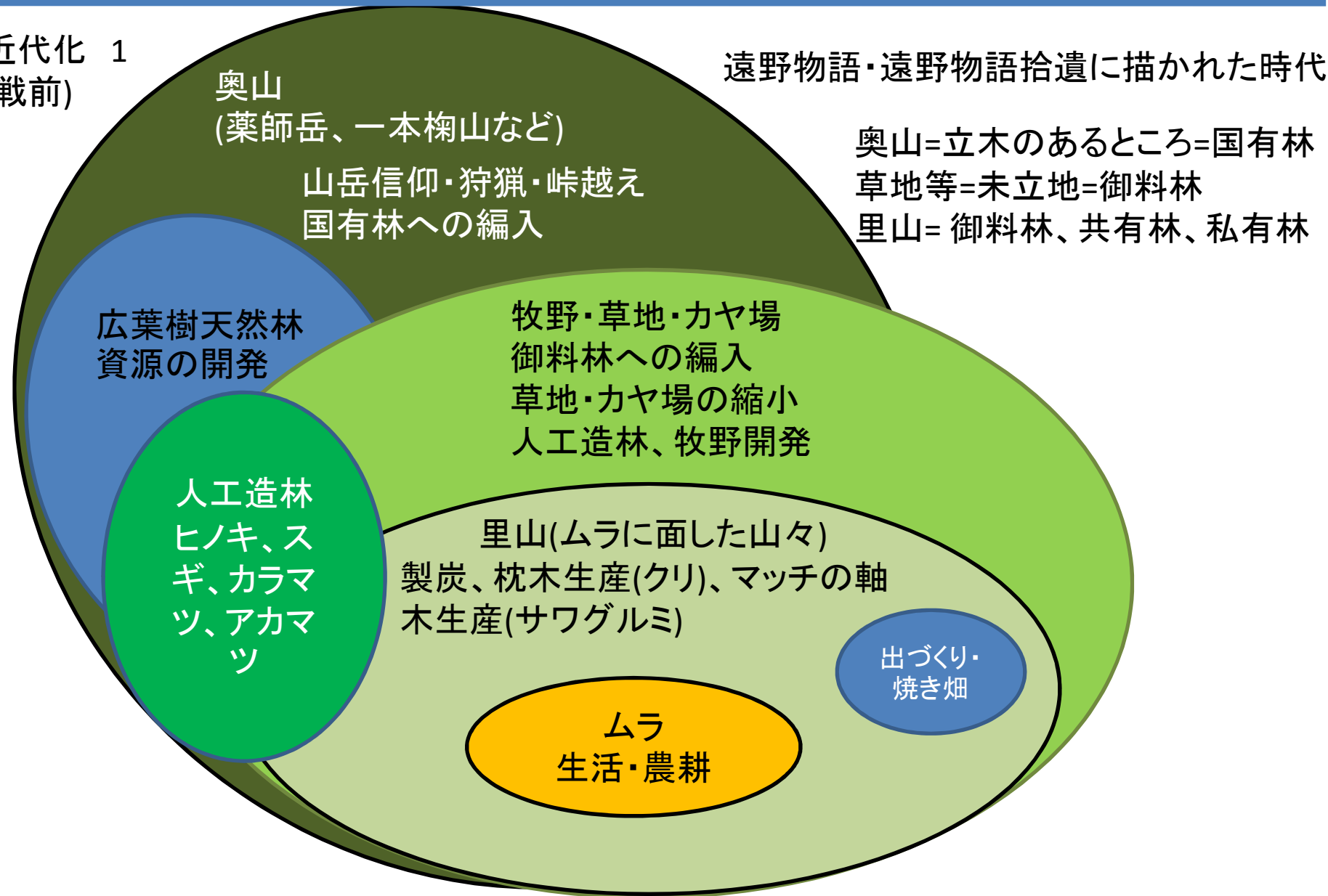
植生との対比

区分	里山	草地・放牧地	奥山
植生	ブナクラス域代償植生 ホソバヒカゲスゲーコナ ラ群集、ケヤキ二次林 コナラ 尾根・斜面 ケヤキ・オニグルミ 沢筋 アカマツ 尾根	ブナクラス域代償植生 ススキ群団 (ススキ、チガヤ、スゲ等、い わゆる「カヤ」) キタコブシーミズナラ群団	ブナクラス域自然植生 チシマザサーブナ群 団、ヒノキアスナロ群 落 ブナクラス域代償植生 キタコブシーミズナラ 群団
管理	伐採・ぼう芽更新 有用樹種を残して増やす	定期的な火入れ 森林への植生遷移を止める。	特になし。 粗放な択伐
利用	薪の採取 木炭の原木 生活資材の採取 山菜・きのこ・樹実・樹皮・ つる・枝等の採取	牛馬の放牧(初夏から秋) カヤの採取(屋根材等) (秋) ハギの採取(飼料) (秋) 草原性の山菜(わらび)の採取	狩猟(単独猟)、きのこ 採り、峠越え、山岳信 仰の世界
特記	個人や集落の共有地が多いが、 土地の官民区分で官有林野に 編入された山もある。 綾織地区の国有林の大部分は 官有林野→御料林となったもの。	所有権が不明確であった土地が多く、 官民区分で官有林野に編入された箇 所が多い。	藩の直轄林で官林に編入さ れた。 現在も、更新したヒバが散見 されることがあり、人工林化 する以前は、まとまったヒバ 林が存在した可能性がある。

山の利用

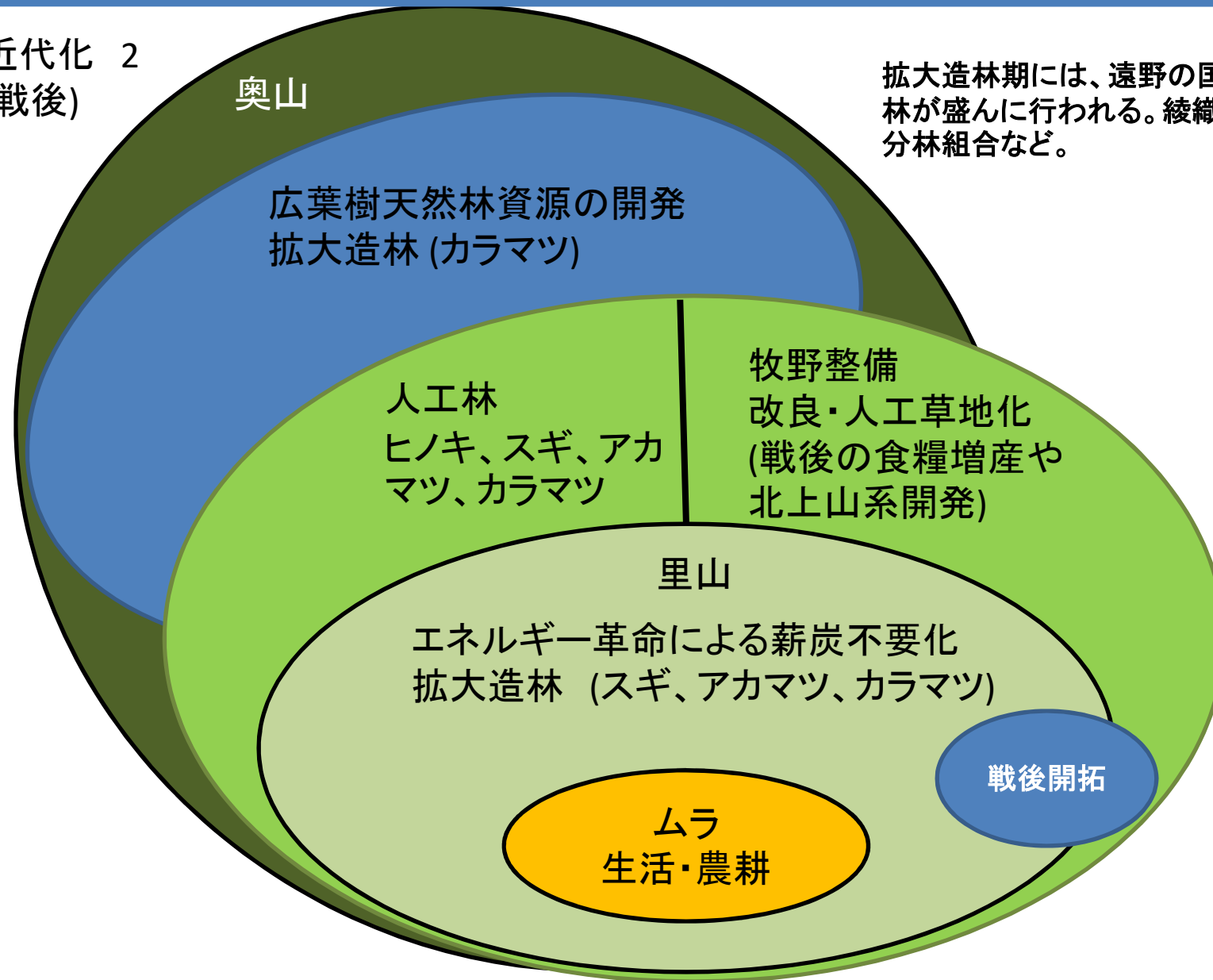
近代化 1
(戦前)

遠野物語・遠野物語拾遺に描かれた時代



山の利用

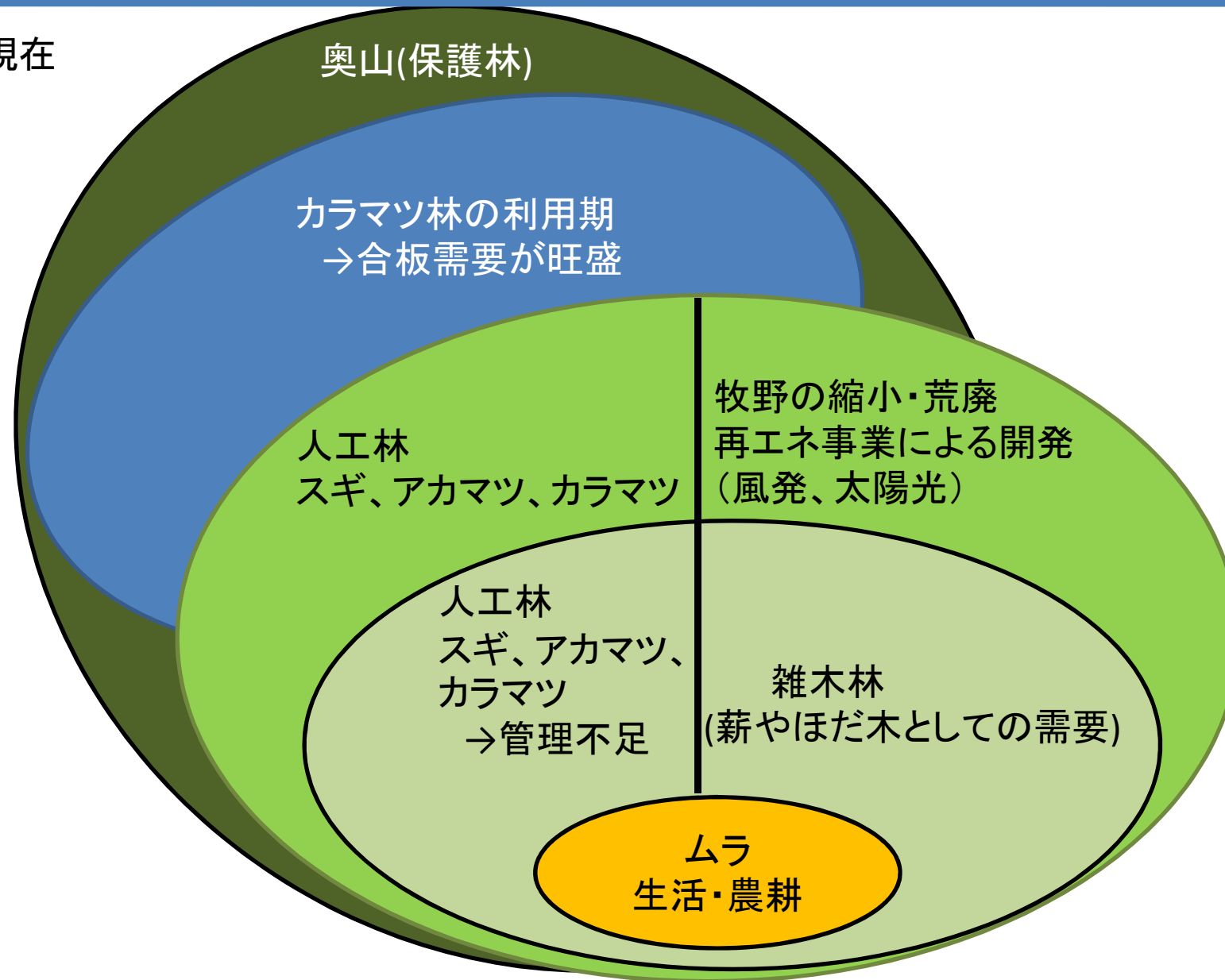
近代化 2
(戦後)



拡大造林期には、遠野の国有林での分収造林が盛んに行われる。綾織町では山谷川部分林組合など。

山の利用

現在



遠野物語における山の利用(近世～近代化1の初期)

話	主体	活動	場所	エピソードの主題
三	栃内村和野 佐々木嘉兵衛	狩猟	山奥	山女を射殺
四	山口村 吉兵衛	笹刈	山	山女に遭遇
六	猟師	狩猟	山	青笹村の長者の娘に遭遇
七	上郷の民家の娘	栗拾い	山	上郷村の民家の娘
十	茸取りの男	茸取	山小屋	女の悲鳴を聞く
二十八	附馬牛村の某	狩猟	早池峰への途中	大坊主に遭遇して殺す。
二十九	山口村ハネトの主	登山	鶏頭山	三人の大男に遭遇。
三十	小国村の男	地竹採取	早池峰	山男と地竹で編んだ三尺ばかりの草履に遭遇
三十三	男 男	茸取 カヤの採取	白望山	金の槌とひしゃくを見つける。 桐の咲く山を見る。
四十二	飯豊村の男	茅山に茅刈り	六角牛のふもとのヲバヤ、 板小屋	狼の子どもをさらう。
四十五	栃内村林崎の男	シカ撃ち	六角牛	経立に遭遇
五十二	長者の奉公人	馬の放牧	山	馬追い鳥の言い伝え
五十三	二人の姉妹	芋堀り	山	時鳥の由来
六十一	嘉兵衛	狩猟	六角牛	白鹿を見た
六十三	小国村 三浦某の妻	落取り	小川の上流	マヨイガ
七十五			離れ森長者屋敷	燐寸の軸木(サワグルミ)工場に笑う女が現れる
七十五	小屋掛けの男	枕木の伐り出し	山口	怪しい女が作業員を連れ出す
九十	松崎村の住民	ハギ刈り	早池峰の腰	天狗に関わった男が変死
九十一	鳥御前	茸取り	続石の上の山	山男と山女

遠野物語拾遺における山の利用(近代化1の頃)

話	主体	活動	場所	エピソードの主題
百	青笹村某	マダ剥ぎ	六角牛山	大男との遭遇 餅を食われる。
百二	栃内大櫓の 大櫓幸助	草刈	六角牛山	大男の洗濯物との遭遇。
百五	駒木の子供	萩草刈り	<u>西内山</u>	大男との遭遇
百六	栃内和野 菊池栄作	狩猟	附馬牛大出山中	男との遭遇（大正2年頃）
百九	ある男	草刈	千磐が岳	山男にさらわれた遠野町の女性との遭遇
百十	上郷村の旗屋の縫	狩猟	六角牛山	村兵の別家の山男にさらわれた妻との遭遇
百十二	土淵村の若者共	刈草	<u>西内村付近の隣村 の刈草場</u> に盗み刈り	若い女と遭遇した若者が放心状態になる。 草を運ぶために <u>馬を連れている</u> 。
百十五	金沢村の老狩人	狩猟	白見山	狐火的なものに遭遇 大正2年秋で、小林区署長の話 (この頃の遠野小林区署長は相馬隆一、金沢村も遠野が管轄)
百十六	土淵村野崎 前川勘右衛門	茅刈り	山落場 (琴畑川の支流)	年よりの笑う声に遭遇 明治の末の頃
百十七	野崎の佐々木長九郎	木取り	白見山	怪異体験
百十九	土淵村の若者たち	木流し	琴畑川	不動堂での怪異体験

遠野物語に描かれた森林

茅・萱 屋根の材料等
草・萩 飼料



生活に必要なものの
供給の場

- ・光が当たるところでないと生育しない
- ・**樹木**が生育するのを**防止**する必要

火入れ、
刈り払い

沖義裕氏作成資料(2018)

国有林遠野開庁130周年記念講演会

遠野物語に描かれた森林

クリ → 用材(枕木)・食料

オニグルミ → 食料

サワグルミ → マッチ材

キノコ・山菜 → 食料

木炭・薪



食料・換金商品等の生産の場

遠野物語に描かれた森林

- ・生業の場 炭、枕木、マッチ軸等
- ・生活物資 萱(屋根の材料) 草・萩(飼料)、タケ・ササ
マダ(シナノキ:布)
- ・食料 クリ、クルミ、キノコ、山菜
- ・娯楽 カッコ花(アツモリソウ) 等



多層で多様な関わり合い

沖義裕氏作成資料(2018)

国有林遠野開庁130周年記念講演会

近世から近代へ

藩政期

純藩有林
(奥山天然林が多い)

帰属の曖昧な森林
(部分林・共有林)
草地などが多い

私有林

明治時代

御林 (1869)
版籍奉還

〔 土地の官民区分 〕

〔 地券発行 (1873)
地租改正 (1873) 〕

官林 (1871)
社寺上知

官有山林原野 (1881)
里山や草地などが多い

私有林・共有林

(立木の多い山)

(立木の少ない山が
残る。)

(いい山もほしい)

(まとまった面積の山)

国有林 (1897～)
森林法制定

御料林 (1889～)

私有林・共有林

(不要な山を地域等に払い下げし、その資金で造林事業を行う。)

遠野における御料林管理

明治22年(1889) 岩手県が管理していた官有山林原野のうち一団地100ha以上のものを、御料林に編入。

遠野地域の御料林は、元は、まぐさ場や放牧地がほとんどで、地域住民の入会慣行がある山がほとんどで、毎年の火入れ、延焼等により立木資源が蓄積されなかったが、軍馬の育成の必要や民生安定のため、入会慣行を排除することはできなかった。

明治32年(1899) 料金を徴収して放牧を公認

明治38年(1905)～明治45年(1912) 8年間牧場を貸地

明治42年(1909) 国有林のうち、御料林に接続・介在するものを御料林に編入
遠野小林区署から約244町歩を編入
新里御料地に苗畑開設

明治43年(1930)から大正2年(1913)

採草地(まぐさ場)及び放牧地の面積を、全面積の44%に絞り込む。

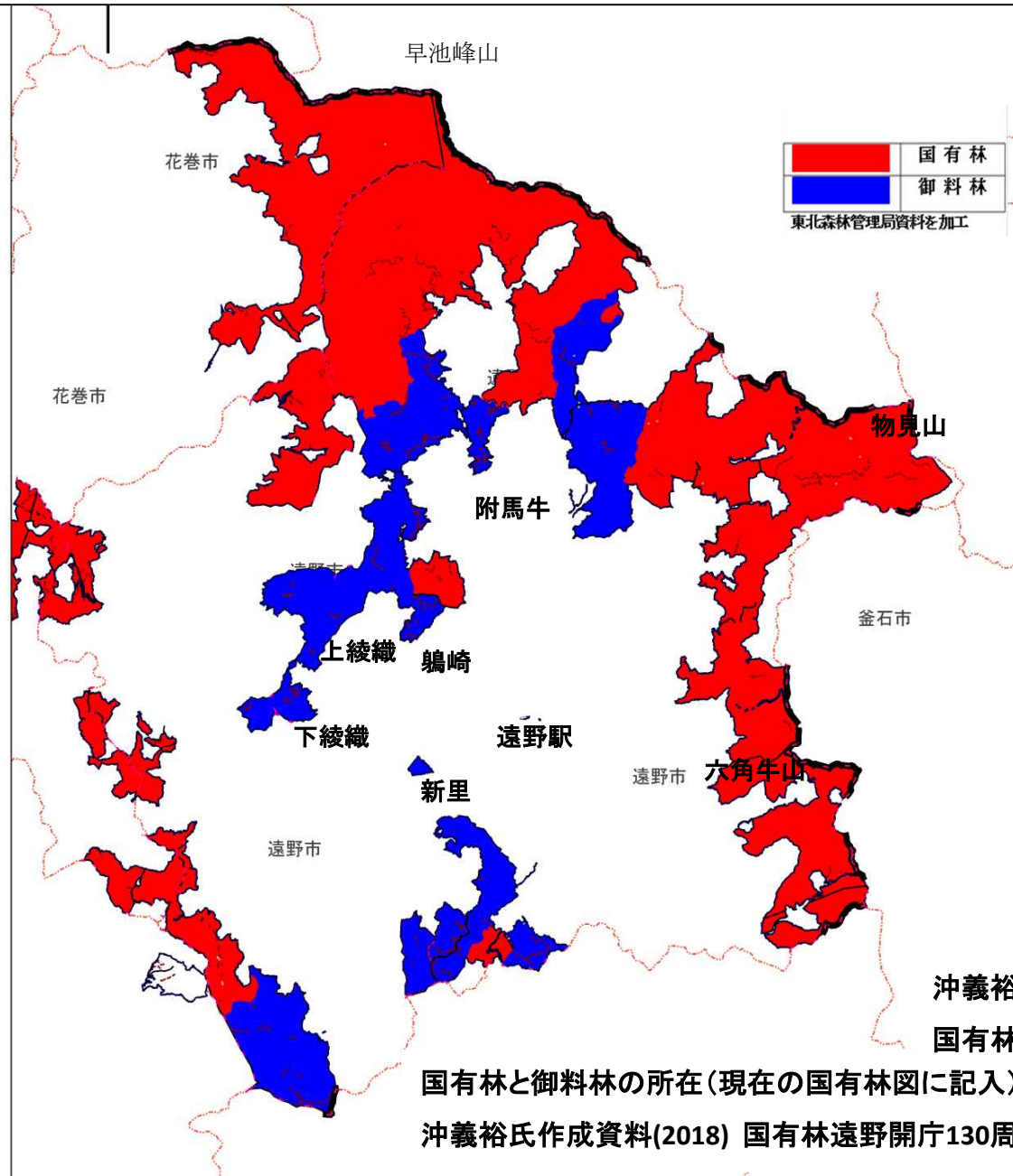
→以降、本格的に造林事業がスタートする。

※草地が隣接しているため、造林するためには、延焼防止のための防火土塁の建設が不可避だった。

綾織地区の御料林面積	新里御料地		86.19 ha
	上綾織御料地		1,179.96 ha
	下綾織御料地		164.23 ha
	鴎崎御料地		701.95 ha

現在、綾織町にある国有林は、戦前は、全て御料林であった。

国有林と御料林





御料林の防火土塁
(御料林を造林するためには牧野等の火入れからの延焼防止の必要があった。)

官民境界標



御料林時代の境界標(石標)
「宮」の刻字が国有地側を向いている。



山林局時代の国有林の境界標(石標)
「山」の刻字が民有地側を向いている。

国有林、御料林が成立して以降、「山人」や「天狗」が跋扈する山々の官民境界に、境界標が営々と設置された。現在、遠野支署の境界線は641km、境界点18,521点(無標を含む)に及ぶ。国有林の境界標は、国土調査で基点としても利用される、現役の「近代化遺産」であり、これを保全していくことは、国有林野事業の大きな使命である。



かつての遠野郷の山には、ヒバ林が広く分布していた可能性もある。



保護樹帯に残るヒノキ人工林(青笹町笛吹国有林)



一本栴国有林のブナ林

ここは、直径の細い木が多く、再生二次林と考えれる。



ミズナラの巨木(附馬牛町)



猿ヶ石川の源流部の原生林 オオシラビソ群落

遠野市の森林・林業の概要

■面積と土地利用状況（遠野市「土地に関する概要調書報告書」）H30.1.1現在

区 分	総面積	田	畑	宅地	山林	牧場	原野・雑種地	その他
面 積(km2)	825.97	39.20	29.59	9.57	424.45	21.76	54.96	246.44
構成割合(%)	100.0	4.7	3.6	1.2	51.4	2.6	6.7	29.8

■林野面積等（2015年農林業センサス）

林野面積計	68,350ha	100%
国有林	28,606 ha	42%
うち林野庁以外	2 ha	0.003%
民有林	39,744 ha	58%
うち独法等	1,110 ha	2%
うち公有林	7,337 ha	11%
うち私有林	31,297 ha	46%

■林業経営体（2015年農林業センサス）

林業経営体数	271経営体
うち家族経営	259経営体
法人化している経営体数	7 経営体
農事組合法人	1 経営体
会社	4 経営体
各種団体	2 経営体
林家数	2,541戸

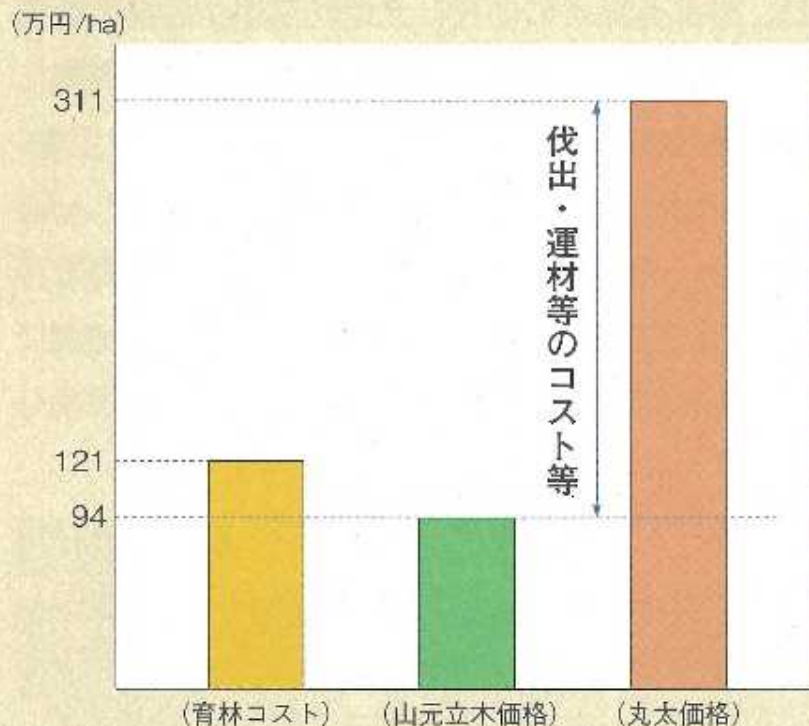
■素材（原木）生産量（ざっくり推計）

国有林 概ね 5 万 m³程度
 民有林 概ね 3～4 万 m³程度？
 →立木販売の重複を控除して 9 万 m³くらい？

■原木消費量

製材工場 3社
 原木消費量 15,000～25,000 m³

資料 I-5 現在の木材生産にかかるコストのイメージ



注1：縦軸はスギ人工林(50年生)のha当たりの算出額。

2：育林コストは「平成25年度林業経営統計調査報告」より抜粋。

3：山元立木価格は「山林素地及び山元立木価格調」を基に試算。

4：丸太価格は「平成29年木材需給報告書」を基にha当たり315m³の素材出材量と仮定して試算。

資料：農林水産省「平成29年木材需給報告書」、「平成25年度林業経営統計調査報告」、(一財)日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調」

採算の合う森林経営を！

○立地条件の見極め、タイプ別の森林経営

- ・傾斜、標高、地力、日照条件
- ・路網の整備状況

○低コスト化・生産性の向上

- ・造育林の低コスト化
- ・伐出・運材等の生産性の向上

○特用林産物などの生産による多角経営

- ・山菜、きのこ類に限らず、つるや獣肉なども

○非皆伐・長伐期施業

- ・事業者の確保、大径材の需要確保が課題

○補助事業の活用

【森林経営計画作成者】

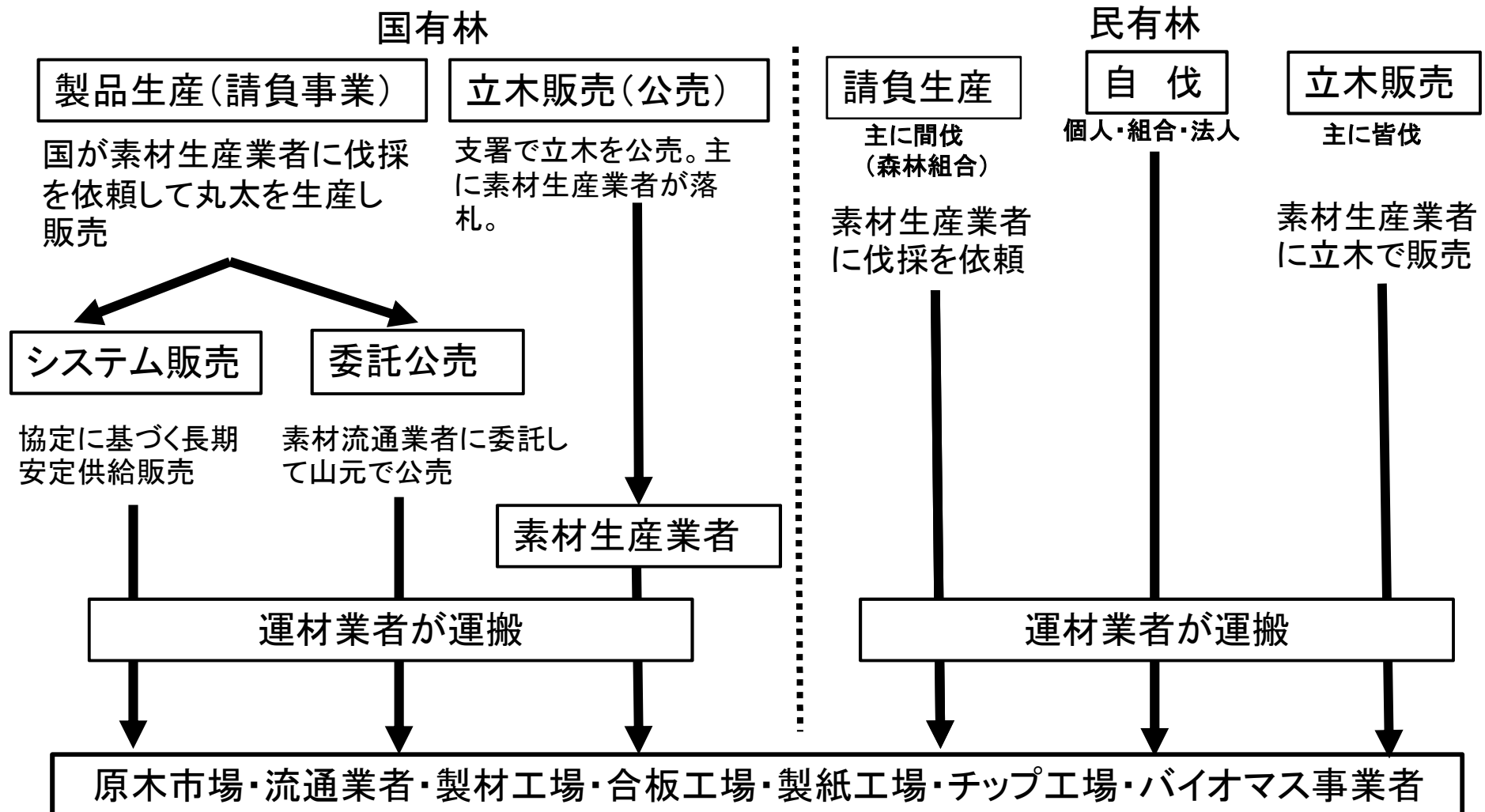
- ・森林環境保全直接支援事業等

【森林経営計画非作成者】

- ・森林多面的機能発揮対策交付金
(上限500万円)

○森林整備センターによる水源林造成 (分収造林)

遠野市における原木(スギ・カラマツ)の流通



千葉家の裏山の活用案

○基本的な考え方

(今後の千葉家の活用のあり方に即した、管理経営を考えるべきではないか。)

○現況・・・人工林と二次林の資源バランスが良く、林道が整備されている好条件

人工林 スギの壮齢林、間伐が必要な林分も

二次林(沢筋) ケヤキ、オニグルミの多い溪畔林

二次林(尾根・斜面) コナラ二次林 ? アカマツ二次林

林道・・・中腹を林道が横断している。

歩道・・・防火用水の配管敷が管理道として使用できるか？

シカ・・・区域内にシカの越冬場がある。ミズキやニレ類に食害

○利用

景観保全上もシカ対策上も、皆伐は避けるのが賢明

森林散策や森林体験の場

食材や四季の飾りつけの材料の供給源として活用

人工林 皆伐は避けて、択伐、間伐を通じて材を生産しつつ光環境の改善

間伐材は売却し、立木は将来の補修材料としての活用を検討

二次林(沢筋) 樹種構成に留意して間伐し、間伐材は薪に。

沢筋では山菜を保護・増殖、クルミ、クリ等の採取、山菜・きのこの採取、

ミズキの枝、つる、樹皮

二次林(尾根・斜面) 樹種構成に留意して間伐し薪炭原料に。

○保全

シカ対策、松枯れ対策、スギの間伐、雑木林の間伐、沢筋の保全、山菜・きのこの増殖



石上山頂からUAVで撮影した、遠野市宮守町方面



笠の通山

石上山頂からUAVで撮影した、山野川牧野方面

🌲 国有林 🌲

- ・ 国が所有する森林
- ・ 森林面積の約 3 割 (767万ha)

※国土面積の約 2 割

- ・ **農林水産省林野庁** が管理経営

林野庁

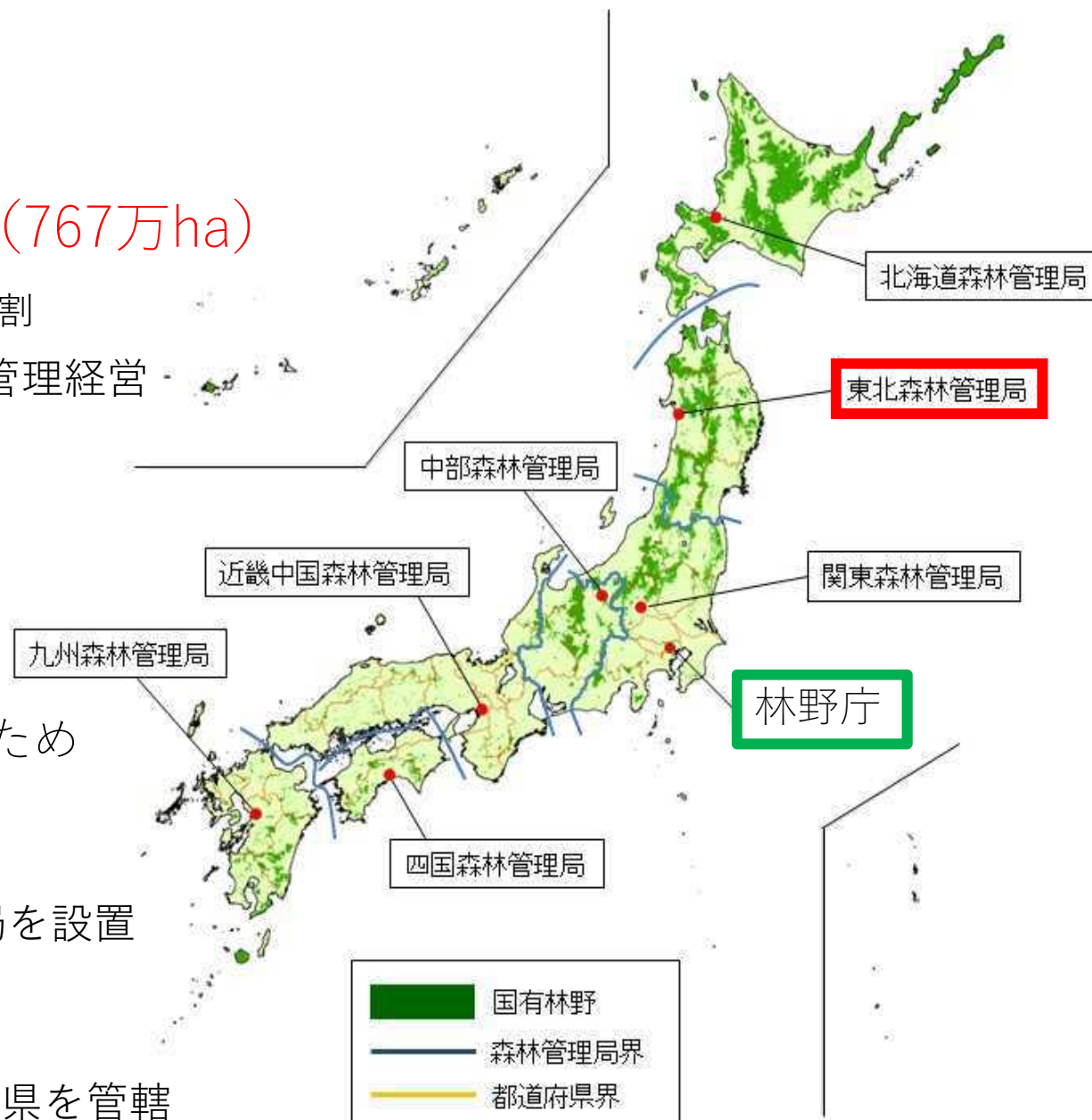
国有林を管理経営するため



全国に **7 つ** の森林管理局を設置

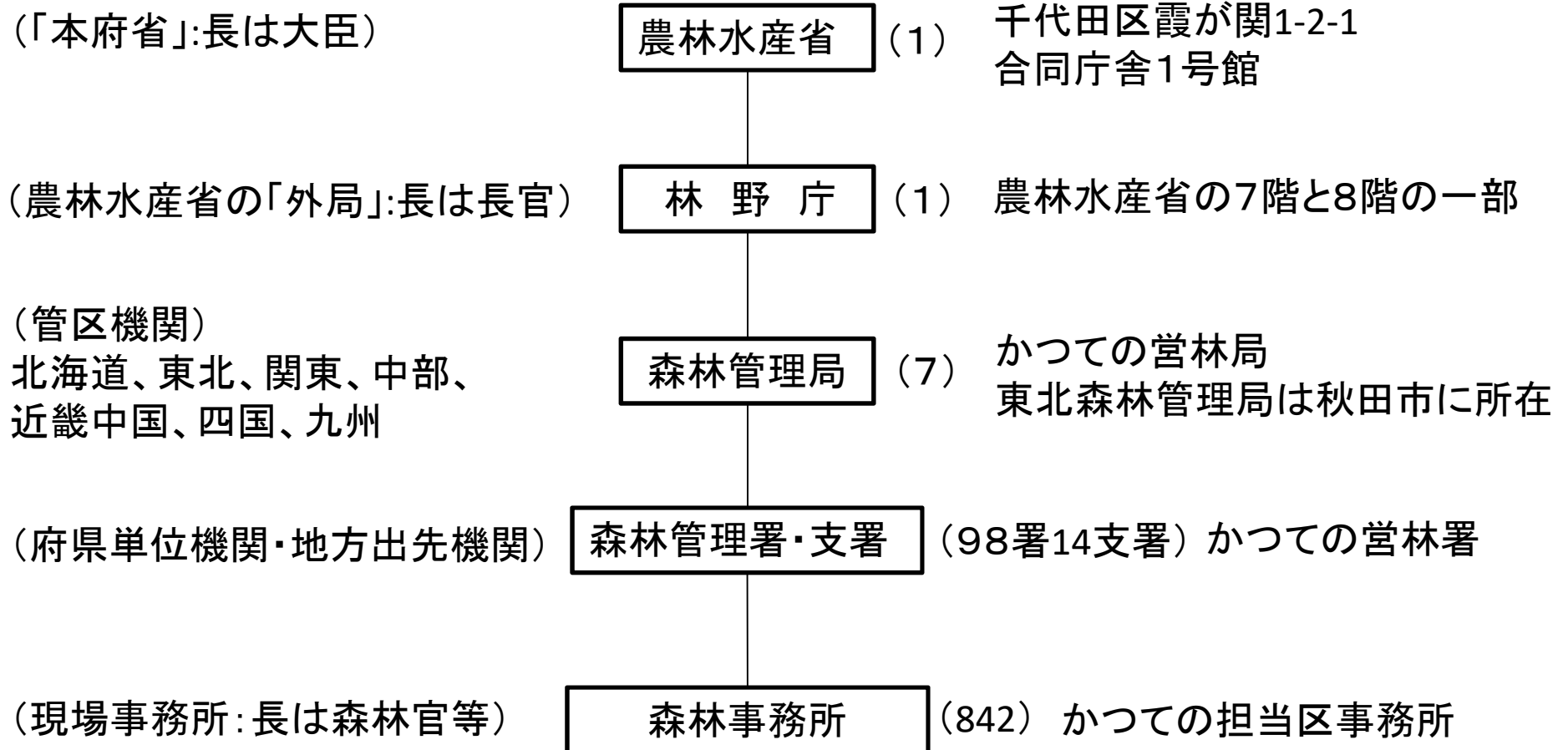
東北森林管理局

福島県を除く東北 5 県を管轄



林野庁HPより

国有林の組織



東北森林管理局

流域単位－18の森林管理署、6の支署を配置

世界自然遺産

ブナの天然林が広がる

白神山地

(津軽森林管理署管内－①)

日本「三大美林」

青森ヒバ林、秋田スギ林、木曽ヒノキ林

戦後植栽したスギ・カラマツの人工林が伐採時期

→ 木材の供給力が高まる

豊かな自然と豊富な森林資源



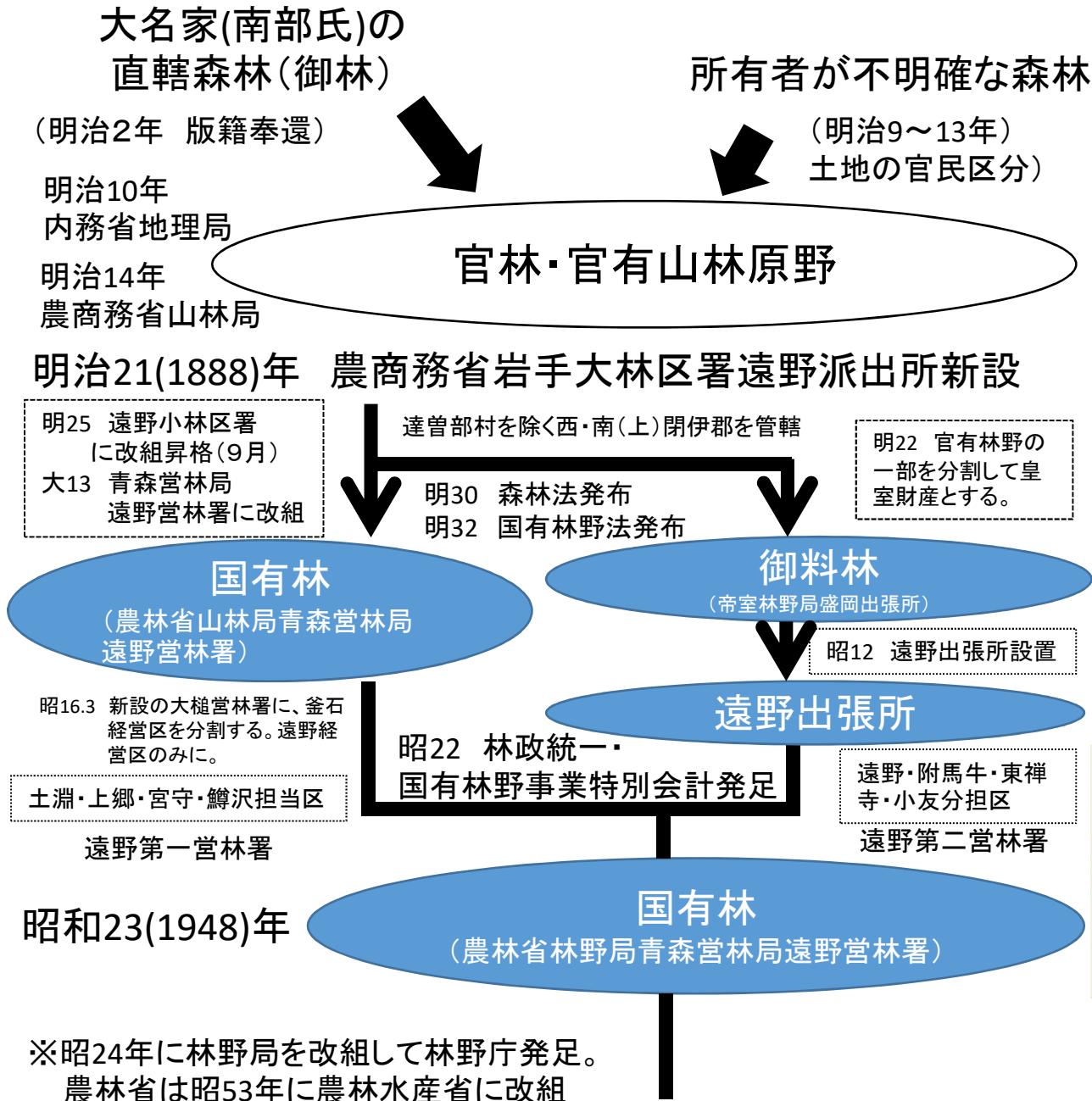
岩手南部森林管理署遠野支署の概要



	遠野支署
	森林事務所
	国有林

事項	概要
管轄区域 (農林水産省令による。)	遠野市 82,597 ha 花巻市 40,435 ha (旧稗貫郡大迫町及び和賀郡東和町に限る。) 合計 123,032 ha
国有林野面積 (国有林野率)	36,366ha (30%) うち遠野市 29,448ha (36%) うち花巻市 6,918ha (17%) (花巻市は旧大迫町及び旧東和町に限る。)
職員数	37名 (定員内18名、非常勤19名) (令和2年7月1日現在)
担当区数	6 担当区 (土淵、上郷、附馬牛、宮守、大迫、達曽部)
森林事務所数	4 事務所 土淵、附馬牛、宮守、大迫
共用林野契約数	6 契約 (H30年度末)
分収造林契約数	304 契約 (H30年度末)
丸太生産予定量 (R2年度)	25,000m ³ (新型コロナ禍の影響で減少の見込み。)
立木販売予定量 (R2年度)	32,304m ³ (新型コロナ禍の影響で減少の見込み。)

遠野の国有林の変遷



明治21年10月4日に開庁した遠野派出所



大正4年に落成した遠野小林区署庁舎
現在の六日町付近



昭和12年に帝室林野局東京支局遠野出張所として
建築された庁舎。戦後、遠野営林署庁舎として、昭
和51年まで使用された。

昭和51(1976)年 庁舎新築(現在の庁舎)

昭和63(1988)年 100周年記念行事挙行

平成11(1999)年 国有林野事業の抜本的
改革(3月1日)

14営林(支)局229署を7森林管理局98森林管理
署14支署に再編
一般会計からの繰り入れ措置

農林水産省林野庁東北森林管理局青森分局
岩手南部森林管理署遠野支署

平成13(2001)年

花巻事務所(旧花巻営林署)廃止により
大迫担当区及び達曽部担当区を編入

平成16(2004)年

青森分局廃止(3月31日)



大迫森林事務所
(現在は、大迫担当区と達曽
部担当区を管轄している。)

農林水産省林野庁東北森林管理局
岩手南部森林管理署遠野支署

平成25(2013)年 国有林野事業特別会計を廃止し一般会計化

平成30(2018)年 国有林遠野開庁130周年(10月4日)

現在の庁舎
耐震改修後



遠野支署の管轄区域

○ 農林水産省組織規則第524条の別表5及び東北森林管理局長通知で規定

森林事務所	担当区	市	担当区の区域	沿革
土淵 (首席) 附馬牛担当 区を指導する。	土淵	遠野市	土淵町	・栃内担当区を統合(S60年度)
	上郷	遠野市	遠野町(旧上閉伊郡遠野町一円)、綾織町、上郷町、青笹町	・遠野担当区(旧御料林)を統合(S62年度)
附馬牛	附馬牛	遠野市	附馬牛町、松崎町	・旧御料林 ・東善寺担当区を統合(H6年度) ・「特定担当区」
宮守	宮守	遠野市	小友町、宮守町字上鱒沢、同字下鱒沢、同字上宮守、同字下宮守の一部(黒日影国有林を除く。)	・鱒沢担当区を統合 ・小友担当区(旧御料林)を統合(H5年度)
		花巻市 東和町	東和町田瀬、同小原、同町井、同晴山館迫、同鷹巣堂、同小友、同谷内、同砂子、同倉沢、同白土、同向田瀬、同覚間沢	(旧和賀郡谷内村一円)
大迫 (首席) 宮守担当区 を指導する。	大迫	花巻市 大迫町	花巻市大迫町(旧稗貫郡大迫町一円)	・亀ヶ森担当区を統合(S60年度) ・花巻署から編入(H13年度)
		遠野市	宮守町字達曽部、同字下宮守の一部(黒日影国有林に限る。) ※達曽部は遠野南部氏の領地で無かったことに留意	・土沢担当区を統合(S62年度) (旧和賀郡土沢村、6及び小山山村)
	達曽部	花巻市 東和町	東和町土沢、同東晴山、同安俵、同北成島、同前田、同外谷地、同北小山田、同南川目、同百ノ沢、同新地、同石鳩岡、同中内、同南成島、同小通、同落合、同毒沢、同上浮田、同下浮田、同石持、同宮田、同駒籠	・花巻署から編入、旧中内村の区域を湯田事務所から分割して編入

遠野開庁1888(明治21)年前後の時代

西暦	和暦	国有林・遠野郷	日 本	世 界
1868	明治元	戊辰戦争（～1869）	五箇条の御誓文、明治改元	
1872	明治 5	岩手県発足、 遠野郵便役所開庁	学制発布、太陽暦採用(1 1月)	
1873	明治 6	横田第一番小学校・綾織小学校開校	徴兵令、地租改正条例	
1886	明治19	山口村に佐々木喜善（遠野物語の話者）が誕生	ノルマントン号事件	
1888	明治21	岩手大林区署開庁（5／4） 花巻派出所開庁（9／5） 遠野派出所開庁（10／4）	日本標準時施行（1／1） 市制及び町村制施行（4/25）、 時事通信社、東奥日報社創立	ゴッホが左耳たぶを切り落とす。 （12月）
1889	明治22	遠野町・綾織村・小友村・附馬牛村・松崎村・土淵村・青笹村・上郷村・宮守村・鱒沢村・達曽部村が発足（西閉伊郡） 花巻派出所が花巻小林区署に改組昇格	大日本帝国憲法公布(2/11) 市制及び町村制施行（4/1） 日本生命創業	エッフェル塔落成、 パリ万博
1992	明治25	遠野派出所が遠野小林区署に改組昇格（9月） （達曽部村を除く西・南閉伊郡（後の上閉伊郡）を管轄）	陸軍陸地測量部が1/50,000地図の測量開始	GE社設立
1901	明治34	旧制遠野中学校開校(現・遠野高校)	裕仁親王(昭和天皇)誕生	ノーベル賞創設
1903	明治36	林区署官制改正（10大林区署270小林区署） 岩手大林区署を廃止して青森大林区署に統合（12/31）	日々谷公園開園	ライト兄弟初飛行
1910	明治43	柳田国男が遠野物語を発表	韓国併合	
1915	大正 4	岩手軽便鉄道花巻～笛吹峠間全通、遠野駅開業	対華21箇条要求	
1923	大正12	西閉伊郡と南閉伊郡の区域は上閉伊郡に。郡役所廃止	関東大震災、郡制廃止	ハリウッドサイン設置
1924	大正13	営林局官制公布（6 営林局192 営林署）、 青森営林局遠野営林署、花巻営林署に改組（12/20） 帝室林野管理局を帝室林野局に改組、盛岡出張所は東京支局の管内に編入（遠野出張所は盛岡出張所から分割して昭和12年に設置）	裕仁親王婚礼 阪神甲子園球場完成	第1回冬期オリンピック(フランス・シャモニー)

遠野支署の業務

1 管内国有林の公益的機能の発揮させる管理経営を推進する。

- ・水源涵養機能の発揮 → 水源かん養保安林の整備等
- ・防災機能の発揮 → 土砂流出防備保安林等の配備・整備、治山事業の実施、迂回路としての林道等
- ・環境形成機能の発揮 → 自然景観や文化景観と一体となった景観の保全等
- ・生物多様性保全 → 保護林や緑の回廊の保全、生物多様性に配慮した施業、ニホンジカ対策等
- ・保健休養機能の発揮 → 早池峰山をはじめとしたレクリエーション資源の保全・活用（遠野三山は国有林）

2 林産物の安定供給

- ・林産物の安定供給を通じて、林業・林産業をはじめとする国民経済・地域経済の発展に寄与する。
- ・造林や生産事業を通じて、事業体の育成に寄与する。

3 民有林行政への支援

- ・森林整備推進協定の締結による一体的な森林の整備、共同での林道・路網等の基盤の整備
- ・森林施業技術検討会、労働災害防止会議等の開催、林政情報の提供等

4 地域振興支援・国民参加の森林づくり

- ・共用林野制度、分収林制度（しいたけ原木の供給等）、貸付（道路敷、登山道等）、遊々の森等
- ・イベント等への参加・協力 緑化祭里山フェスタ、早池峰山山開き、産業まつり、使用許可（駐車場）等

5 関係機関・地域との協力

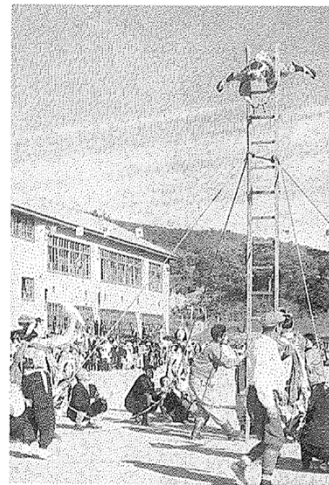
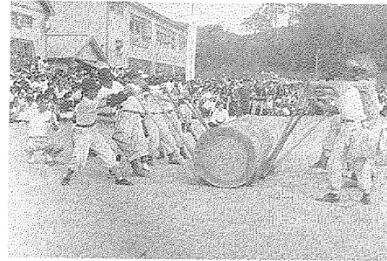
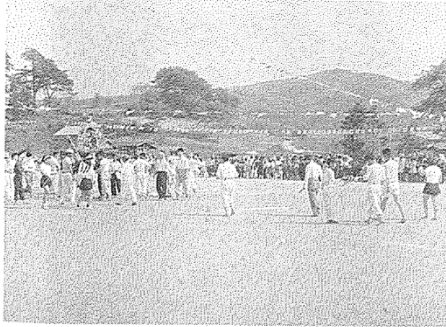
- ・「森林のくに共同機構」との連携
- ・森林・林業行政連絡会
- ・不法投棄物クリーンキャンペーン、田瀬湖一斉清掃、早池峰山パトロール、外来種駆除等
- ・山火事防止パトロール、有害鳥獣対策etc.
- ・森林教室、森林・林業体験（小学校や児童館）

→ 国有林管理の間口は広い。

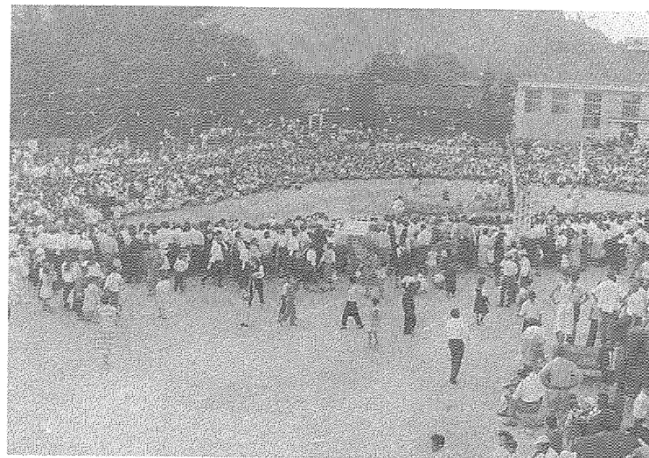
遠野署の歴史スケッチ

全林野遠野営林署分会
結成40周年記念誌「群峯」(1993)から

左奥が大日山

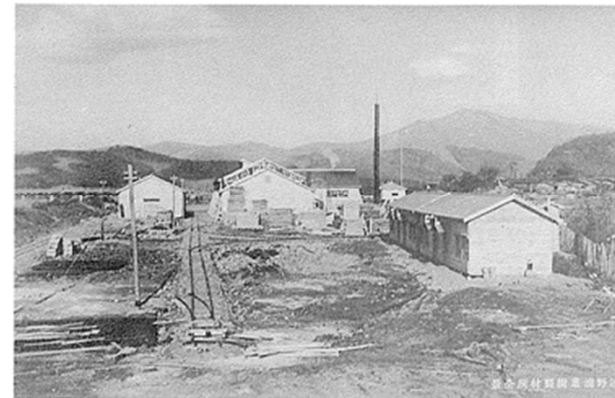


営林署の運動会
昭和二八年から四回開催。娯楽の少なかった当時は、遠野八幡宮の大祭と並ぶ地域の一大イベントとして盛大に行われ、旧村部からバスを運んで数多くの住民が集まった。
出場資格は、国有林に一日以上出役した者とされ、各組会長などを先頭に旧町村対抗で優勝を競った。会場は現・遠野小学校第一校庭で、営林署同様に町外れたった当時の様子が伺える。



右奥の建物は、現・遠小西体育館

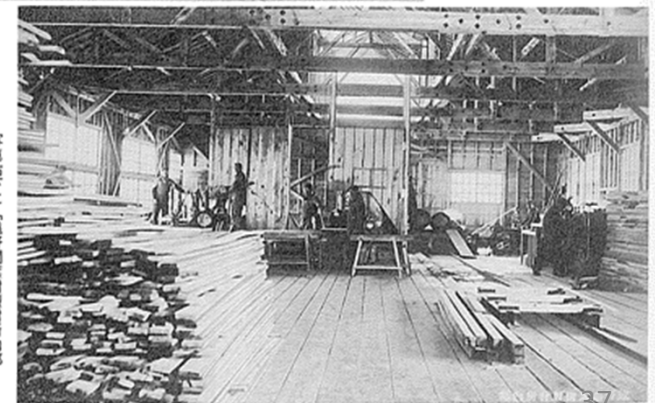
早瀬川の鉄橋を渡る森林鉄道



この三枚はウラが案書になっている。セツで作成されたと思われるがいきさつはわからない

昭和二年
ブナ、〇二m外、ナラ、セン、ホホ、カツラなど計一、二三七mを製材

写真右下に「遠野営林署製材所内部」と記されている



遠野営林署開庁百周年記念行事 昭和63(1988)年5月25日(水)挙行

於:上綾織国有林(資料に林小班の記載が無い。) アカエゾマツを植樹した模様



遠野市長、東和町長、宮守村長、官公庁関係者、業界関係者、消防・消防団関係者、緑の少年団など、多数が参加・出席して記念植樹祭と記念祝賀会を挙行。

150周年(2038年、令和20年)には、盛大な式典を期待する。

←祝賀会 於 レストラン・なべくら大休憩室
(署員だけでも約200人いた頃)